

表一 個人消費……一部に弱含みの動きが見られるものの、  
総じて底堅く推移している

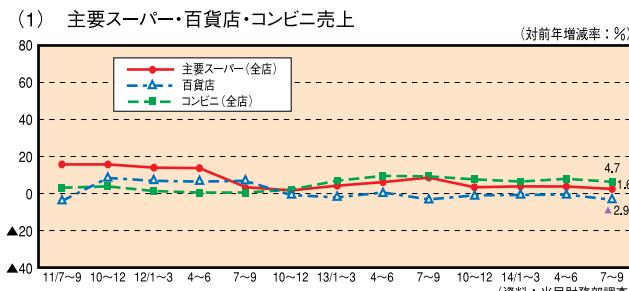
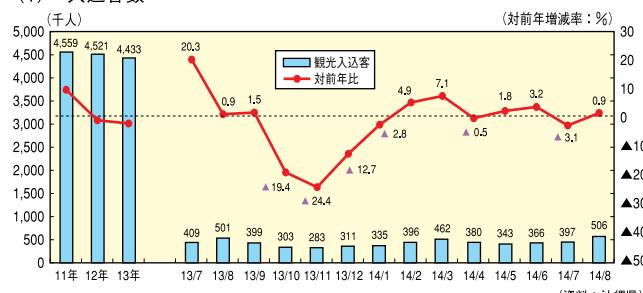


表-2 観光……着実に回復してきている

### (1) 入込客数



観光をみると、  
観光入込客数は  
低価格商品や  
各種キャンペー  
ン等の誘客  
効果もあって  
高水準で推移  
しており、着実  
に回復してき  
ている。

このように、個人消費は、一部に弱含みの動きが見られるもの、総じて底堅く推移している。

最近の省内経済情勢をみると、個人消費は、一部に弱含みの動きがみられるものの総じて底堅く推移している。公共事業住宅建設は前年を下回っている。また、十四年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

観光は着実に回復してきている。

こうした中、企業活動をみると、生産は持ち直しの動きが続いているほか、十四年度通期の企業収益は、増益見通しとなつてゐる。企業の景況感は、現状は「下降

平成十四年十月、財務部では  
次のとおり取りまとめました

管內經濟情勢報告

超となつてゐるものの、先行きは上昇、超に転じる見通しとなつてゐる。

景気回復などから客室単価が前年を下回っているものの、高水準で推移した観光入込客数の影響を受け、客室稼動率は前年を上回っている。

ていることから、全産業では増益見通しとなつてゐる。

みると、国等で前年を上回っているものの、県、市町村等で前年を下回っていることから、全体でも前年を下回っている。**生産活動**をみると、建設資材関連では、アルミ型材が、前年を下回っているものの、セメント、生コン、棒鋼は前年を上回っている。

また、食料品では、ビール、パン・めん類が前年を下回っているものの、食肉加工品、泡盛、発泡酒は前年を上回っている。このように、生産活動は総じてみると持ち直しの動きが続いている。

**企業収益**（石油、電気、ガスを除く）をみると、十四年度上期は、製造業で増益とみているほか、非製造業でわずかながら増益とみていることから、全企業では増益見込みとなっている。

十四年度下期は、製造業で減益とみているものの、非製造業で大幅な増益とみ

設住宅の着工床面積も前年を下回っている。  
資金別の着工戸数では、公的資金が前年を下回っているものの、民間資金は前年を上回っている。

このように、雇用情勢は依然として厳しい状況にあるものの、一部に明るい動きもみられる。

消費者物価をみると、被服及び履物など多くの費目で下落傾向にあることから全体でも引き続き弱含んでいる。

金融面をみると、設備資金でわずかに動きが見られるものの、運転資金が依然として低調なことから、全体では前年を下回っている。

農産品を野菜・果実の出荷量、出荷額でみると、県外向けのマンゴーが好調だつたこともあって、前年並みとなっている。

**雇用情勢**をみると、完全失業率は依然として高水準で推移している。また、有効求人倍率はここへきて動きがみられるものの、低水準で推移している。雇用保険受給者実人員は減少しているほか、新規求人件数、就職条件件数とともに増加している。

から、全産業では「下降」超幅が拡大している。  
なお、先行きは、製造業で「下降」超に転じるもの、ウエイトの高い非製造業で「上昇」超に転じることから、全産業では「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

**農産品**を野菜・果実の出荷量、出荷額でみると、県外向けのマンゴーが好調だったこともあって、前年並みとなっている。